

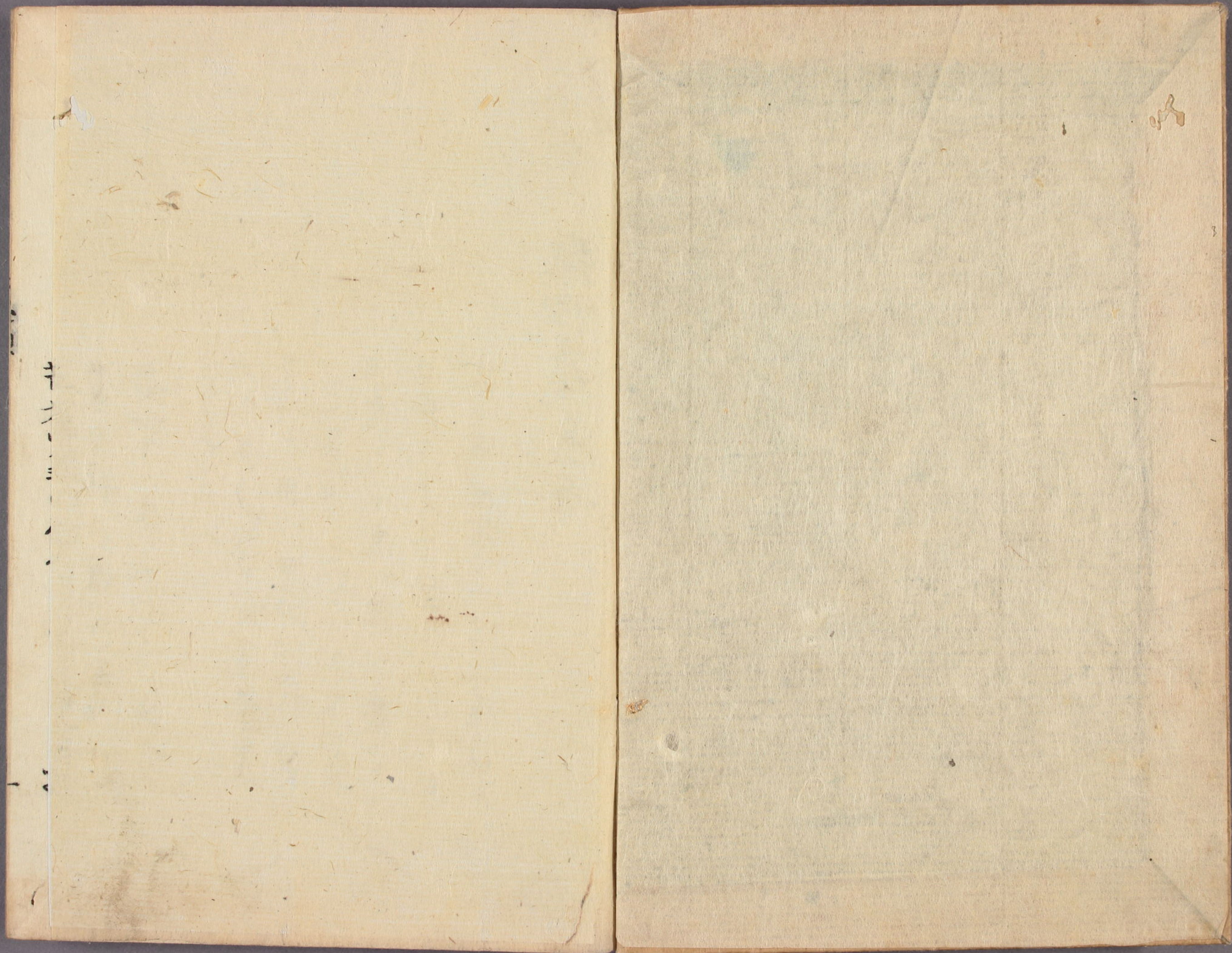


俳諧七部集

七部集  
附  
復外

七





廣野集貞外

誰う毒をねむるもさしあらず  
市中とあきて朝のくさき  
又舞一糸東四明み麓り  
よて花のさくらかこ神をん  
くつて佐川田ま六のうの山  
あさあ〜ささ〜まのま  
こらんす又

麥喰し唐とさくさつり  
世夕尾陽の影ありまけ作を  
芭蕉翁の傳へ〜ちんちん

笑しにけりつ出田野へ居し  
實も世の成感もむし  
さきも人の中は虎のお徳と  
さきも道も知も人あはれ  
独色を身愛しし人も  
おほふつとあやたのし  
様もまてし實に下るる  
あまのこゝろも實の字老  
杜乃さうろをさや権厚の  
句を志すひて

素堂

妻をすつ妻は母やお母ぬるのし

この文人乃るつこの  
さげしつれいなる人  
あまのこゝろも實の字老

おほむかしがたすの事おほむかし  
野水

様のおもさるるよまのまて  
荷今

もの志のなるわし  
越人

門跡石月待園のやまひり  
水

風の月形を初秋乃る  
今

人  
武士乃鷹うらふの鳥いけり  
志をかりてつて深の淵に  
代長くを経て世に出る者のうら  
はふと降らぬとくはむら  
立久し松の直を伝ふ乃深  
千の字をむらむらむら  
地さぬら一主梅も咲深あり  
あてともなむら月あつた  
水 人 今 水 人 今 水 人

今  
千の字をむらむらむら  
秋夜なむらむら深人乃妻  
ぬらむら西も東も鐘乃色  
さふらむらむら利根の川舟  
あつたのむらむらむらむら  
深子乃らむらむら相織らむら  
あつたのむらむらむらむら  
狐乃らむらむらむらむら  
人 今 水 人 今 水 人 今 水 人

柏木の脚元の比のつくしと  
 さやうのこのまゝ実えつる  
 月乃糸くらし合とたりとお撰  
 秋こたふく事里乃酒桶  
 高きく純す物と知る事  
 うれしとこのぬる彼乃事作  
 かこある諫之海こほあし  
 火の着るものこほあし

水 人 今 水 人 今 水 人 今 水

うくすものこほあし  
 めせのこほあし  
 せいの事初もくまのこほあし  
 柳くまゆらまのこほあし  
 黒土ろのこほあし  
 大根のこほあし

人 水 今 水 人 今 水 人 今 水

糸洞

遠は也浪に志をさす樹と亭

はとれ舟もく酒のまじりし 荷分

のとまじりやあがり泊ふ何と解て 昌碧

百足乃懼る茶とさかきあふ 野水

夕月の雪み白たをくら旅 舟泉

お寒の蓑を裾よりさき残 釣雪

秋乃の髪をせよとよきし地所そや 筆

一駄るしし是も古錦 糸洞

さこの(ま)よきまきしる宮祿の麻 荷今

ふよき秋のやにぬふと平一栄 昌碧

しつとよあつてあつた大藏達 釣雪

湯殿まののともむむいしや 舟泉

涼しやと恋もくくも川の端 野水

しつとよあつてあつた大藏達 荷今

秋風より女車の髪をねとて 糸洞

袖そあつたまきしる法輪 釣雪

時しつとよあつてあつた大藏達 昌碧

いよき山吹もくくもくもくし 野水

日乃いてやらふらほも人腹より 舟泉

ふやあつたまきしるああ未 糸洞

向まて寝やるはものふふひにて 荷今

垢離かて人の着ものみきまき 昌碧



配所より干粟のか減りえ

釣雪

まうらふもあまのちも

舟泉

しへきよあひつきく赤腫

野水

川をさく 若子よひこむ

荷今

いさなは長控所の藪海

龜洞

お母のあはれとわくと田風

釣雪

あまのつらふたの下の月

昌碧

やまらぬ乃やあまのなほ

野水

つらなはなほの海の窓

舟泉

あまのつらふたの下の月

龜洞

夏の目やらの泥の照り

荷今

桶のかつら入しちひら

昌碧

つらなはなほの海

釣雪

つらなはなほの海

野水

夏一よ秋くきりまのあ

舟泉

柳のくみきりり乃卵

松芳

夕やあ深おさくくく人

夕文

きくくくくくくく月影

荷今

秋草のくくくくくくく

松方

弓ひとくくく勝相横地く

舟泉

ふも赤木の拾ひむとらむる 荷兮

ふもくく砂の中み木のと 冬文

火風の皮みきぎるむくく 舟泉

炭えびしやうらむ火はつ 松芳

ふもくく棠嶋まつしてそふも 冬文

酒の半く膳もちつてふも川 荷兮

果る年なや順礼ととすは 松芳

くまて双魚の糸絡とてふも 舟泉

なつゆりともうら志をまもむの息 荷兮

月のたほらやぶる井乃乃 冬文

灯にまばねひつてまの風 舟泉

珠珠をくまのまて脇息のく 松芳

陰辰と八齒くまの志はく 冬文

十日のこくみわしとふも 荷兮

山里の秋をくしと生翳 松芳

そ持かあくく入るやとむ 舟泉

あふ

九

つら〜とあつたを属の月の歌 荷兮

馬乃とあつたを属の月の歌 冬文

さひ〜とあつたを属の月の歌 舟泉

慈ぬま〜とあつたを属の月の歌 松芳

つ〜とあつたを属の月の歌 冬文

曉畑の〜とあつたを属の月の歌 荷兮

け〜の花とあつたを属の月の歌 松芳

味増す〜とあつたを属の月の歌 舟泉

白月入〜とあつたを属の月の歌 荷兮

清中〜とあつたを属の月の歌 冬文

暮結於赤貝とあつたを属の月の歌 舟泉

教え〜とあつたを属の月の歌 松芳

こいけ〜とあつたを属の月の歌 冬文

抑〜とあつたを属の月の歌 荷兮

21

荷今

やう・まうす 沽ぬ心のれもあま

雨のりつあふくこてる戸の口

野水

引一持一車ハ琵琶のかんざて

同

あゝさうねくも人のうゝかひ

荷今

月の秋葎乃きこさこちもあ

同

一ッ何にまひし 中あ乃きこさけ

野水

うん

士

初あ〜〜〜せの露の結まは 水  
 菜畑畑むしめせ〜〜〜と 今  
 土肥をた〜〜〜とせ〜〜 全  
 下判お〜〜〜種〜〜〜水  
 通後の〜〜〜と〜〜〜全  
 六位のあ〜〜〜意の〜〜〜手  
 代た〜〜〜と〜〜〜と信た〜 全  
 鏡一貫之銀 一 糸 一 水

月乃節の〜〜〜と〜〜〜全  
 茶喫〜〜〜と〜〜〜手  
 天仙〜〜〜と冷食あ〜〜〜全  
 う節の〜〜〜と〜〜〜中  
 た〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜全  
 夕〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜手  
 鮎のや〜〜〜と信濃〜〜〜水  
 秋のあ〜〜〜と青降〜〜〜手

生見魂 水

八日乃因のちまき

山乃増又松と根とのちまき

とす

異るはや服のちまき

太鼓たれん階子乃ちまき

ちまき

とす

忠小とちまきぬ形よて二三年

底をつき住居かちまき

三方のおむちまき

供奉乃竹鞋を合へちまき

候ちまき塩大原嶮城のちまき

くちまきはるの川岸

筆

月さーのほももさる登のりもさる  
ねーろさく柄をさーさーさー  
用や常備法解り方なすさー  
まのあはれぬさるさるさるさる

月さ柄をさーさーさーさー

蚊のねるほろとさるさるさる  
越人

さるさるさるさるさるさる  
傘下

ねあひさるさるさるさる  
同

さる木柱つえねさささるさる  
人

使の者さーさるさるさる  
同



ぬれぬれと猫の子を遊ばせしむる  
 筆  
 一々いふもあはれなり  
 下  
 ところをいふの事えさしおぼる  
 同  
 おもたもけりなほすの布人  
 大勢乃人よ法華をこゝろゆく  
 同  
 月より夕く物籠傳うは下  
 晴ふ梯も又ふうも皆流し  
 同  
 秋乃きりさけ細みるまの  
 人

くのまゝにづらばきかき入る  
 同  
 寂るの書り文字結ゆるむ戸  
 下  
 花の質るらんいふはあま  
 同  
 鳥のうらみこそまゝの橋  
 人  
 くら冠く浦のなまの橋下  
 同  
 内へたいてるなやゆる大下  
 下  
 酔さよのあはれいけり  
 同  
 多きけりなほ雨乃際出し  
 人

歌ありを指名種首おいしく  
すゝ献立のしめしちのたを  
灯其油を油して押す  
白をたせしむるも  
ゆる凡そ急のさるはのあら  
半ちこすす ちか  
むつと月をの  
人の徳こきもあし

下 人 同 人 同 下 人 司 下 人

にさるく丸や首やを荷ひぬ  
下とあまののしゆん中  
ねらうしゆ小法のるを  
皆同きよりしゆ佛  
百一ちちるひちち  
の無糸をゆくさる

下 人 下 人 下 人 人

深川の巻

越人

高つては志川を穿ててひまや

涌きあがりぬこのは乃月

芭蕉

あふくは雁が空をめぐりてん

全

環をたぬまは秋乃月を流

越人

瓢箪の大きさと五石ころりや

全

風よぬきつれく帰る市人

芭蕉

かゝるも長安の長江の地 全

醫のねんをく月くを 飛 越人

いそくと所を乃をくをく 芭蕉

飛をくを治やく寺を治り 越人

比星と古きを蓄めをく 芭蕉

足張ちのを廻雨乃あげほの 越人

まゝくやあふくをくあふく 芭蕉

うきひきたふを乃くく 越人

手とつあ唇の先膳とすく 芭蕉

物いそくさく舟ぬたわく 越人

月と比良のるねをく 芭蕉

やぐ雀さくつるころに肌ぬき 越人

破れ戸の釘くら付持をの末 全

えをハさひくを来みひき 芭蕉

家似く眼紗まけく十寸鏡 人

ものねみひぬく神子供ものみ 蕉

人 去ていさし 法聖乃白ひく  
ゆ 衆と繋る 堂とら片隅  
人 本とまに 氣のあまく  
蕉 相抱のこし 常家とこ  
人 あやにくと 於み妹々  
蕉 何のきこわ たらなみこ  
人 月みくこ 能くは  
蕉 亦と遠く 越えいねふり  
蕉 人 蕉 人 蕉 人

人 秋の田を かくせぬら  
蕉 たりく 文章問  
人 いらき 瓦底と  
蕉 馳走 ぬれ子乃  
人 花の法 律義と  
蕉 軍山 一とく  
蕉 人 蕉 人 蕉 人

翁之伴たる所くまの人

きりりりりりりりり

真角

あゝあゝく荷方社文也天降

とあさの月見あゝあゝあゝあゝ 越人

あゝあゝの庭よあゝあゝあゝあゝ 全

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 角

誰かあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 全

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 人

ねむる月さゆらむとてあはれしく  
 静清前へ舞をさすも  
 空蟬の離魂乃のねむら  
 あとさうりさうり金二万ふ  
 いとよしとて他人をたえけり  
 やげとてさしとてさし  
 月鏡と身とつとてさし  
 多きもつとて月のはれ舟  
 人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人

せんいろの富士とて陸若くは  
 心ゆくしとて草刀ノ一  
 饅頭をさしとてさしとて  
 うきとてつとて死ぬ人の損  
 西七母東方朔とて月よえす  
 よしとて鸚鵡の舌乃とて  
 あらとてさしとてさしとて  
 恋の歌とてさしとてさし  
 人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人

和歌

十

や、お母のいふ言をきくは、御心  
 来つて、青き花の原へ、さながら  
 夕陽の影のまをりて、暇乃とて、  
 夕陽の影のまをりて、強か  
 穴いちよと塵うちまゝの草一枕  
 ひいさうとて、わらわ、伊勢の八朝  
 満月と不測の機を、流矢や  
 念者法師を、秋のあまのこ

全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全

夕まの御心、さうとて、  
 まるく、ひらり、実あきの、おと  
 まい、こころ、い、七、食の、  
 まの、ま、ま、ま、ま、ま、  
 花の、ま、ま、ま、ま、ま、  
 花の、ま、ま、ま、ま、ま、

全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全



嵐雪

あそししゆ酒人の醒や死

秋を寒しいつと陽縁 越人

月の宿書を引ちりす中な ねえ 全

介面茶の草一もけさり あめ 雪

そゆあひく牧こす あめ 全

川越ら流る城下の あめ 人

瘡癩島の遠くを渡るかたの

唱へるもさしす色あきり

あしひきくはれし

後さひよやうの

とねとくは油あきす

の體をさくかへる良人

さゆ袖を礎こうて

明日を好友そるや月の影

人

雪

同

越

人

嵐

雪

越

去るも乃群を信める女あり

つきふの醫者乃後安や

ちるはし日こころ

いふこころもいふ

人

雪

越

人

野水

初雲やこゝろのひらき桐の末に

落梧

目のみーうまやまゝの終起

今

山川や霧の喧嘩のそとさうすん

野水

船を遠か〜んえか〜りき

同

杞女さま押合月よ草外つ

落梧

あ〜〜〜しき櫃から秋

川越り歩よそ所ら種雨  
ねを痛くも旅のさしなま  
つとせまをちかきかき様下  
すくさきあひのこしりし  
文もあひのゆきじつとあ  
こそくちり起す相伝る後  
等年の松あちあち力をえが  
旅をぬららのらまの籬と  
水 梧 水 梧 水 梧 水

真のま子あまのぬまこと一文  
下戸ら皆いく月の木平ろき  
耳せ藪のさくもさか教あす  
かきまえさあさきよの初午  
い川ちうもさるすぬ母おん  
山伏伝て人志る伝たりあ  
くくくくくくくくくく  
桃灯もて伝園さくく  
水 梧 水 同 梧 木 梧 水

河津を渡きむ髪を振おほひ

梧

きくくおとくは博識たふさ

水

まらうーの馬よりさのせう

梧

くふ府中一を詔福あつらひ

水

雨やうきれらうく面白

悟

柳やうき倒の慈道

水

新なるく月丁々さり飛子十間

同

寂ーお秋は女まおあや

梧

とくを上まへくゆきうき

水

未ゆきうきゆきうきくの角

全

ねるの干魚はるく川柳く

梧

誰とくもなまへ見くは

同

まき雨乃くくはあはす

水

ねふくくはくとあまなま

梧

一 筆 此 炭 賣 者 の 一 人 也

かきひの支能瓶氷る朝

ささくは也正本を引く後

肩まぬさつ酒さよふ人

夕月能入ささく早さつ

たつは鯉をさつさつ

一井

嵐彈

胡及

長虹

嵐彈

一井

里遠く踊あう二三日 長虹

ま司の妻にわれら所々 胡及

向ひ終くと後より地のはら 一井

昔籠とくさく切ちかく文 嵐彈

うやうやと寝起あつて湯を まうす 胡及

をゆく東羊の越み雪鋤 長虹

なごころうよとくあひてはら 舞 嵐彈

蛤とアさしあ女中 一井

浦風之脛吹あくる月遠く 長虹

みるもか〜〜化紀作の風魂を 胡及

あ者乃き〜矢射てたる為 際 一井

蒜と〜ぬ香と遠くうさりり 嵐彈

ほもの〜終あア〜〜も脛をん 胡及

あの子乃綿乃裾とあつ 長虹

えあ〜〜内と〜〜も度 嵐彈

座あちちある敷屋を物より 一井

木もさかんにあはれし松の枝 長虹

秤にふる人 乃真 胡及

け年一なるやうな夕のほろも 一井

ほくくもせきくついで入月 嵐弾

まきまき障子の陰踏うそき 胡及

こころもあはれしきほむおのて 長虹

湯も極入さこのまのころもあは 嵐弾

衣川のあはれくのかき 一井

毒ありと瓜一と地もあはれ 長虹

片風あはれし白雨 胡及

板もあはれし端あはれし庭の因 一井

もくもくあはれしあはれし丸 嵐弾

あはれしあはれしあはれし雲 長虹

見わたすあはれしあはれし 胡及



發行

書林

同 心齋橋通南久寶寺町	同 心齋橋通備後町	大坂南久寶寺町	肥前佐賀白山町	京都三條通升屋町	同 芝神明前	同 本石町十軒店	同 日本橋通二丁目	同 淺草茅町二丁目	江戸日本橋通壹丁目
伊丹屋善兵衛	近江屋平助	榎並屋小兵衛	紙屋惣右衛門	出雲寺文治郎	岡田屋嘉七	英大助	山城屋佐兵衛	須原屋伊八	須原屋茂兵衛



#111  
111111

